

建築雑誌にみる現代建築家の運営企画と建築表現

安田研究室 15_02420 榎 航太朗 (ENOKI, Kotaro)

1. 序 近年のストック型社会に対応すべく、現代の建築家は設計業務を超えて運営に関わる提案を積極的に行っており¹⁾、建築プロセス^{注1)}において建築の運営企画にも関わるようになってきた。本論文において運営企画とは、運用時のみならず設計・施工時を含め竣工後に影響を及ぼす建築企画^{注2)}と定義する(図1)。既往の運営企画に関する研究には調査対象や建物用途を限定したもの²⁾が多く、複数の用途を対象に運営企画と建築表現の関係を体系的に関連付けた論文はない。そこで本研究では運営企画に関する記述が確認できる事例(表1)を分析(図2)することによって、建築プロセスにおける運営企画と建築表現の関係を明らかにすることを目的とする。

2. 対象事例の選定条件と特性傾向 主要な建築雑誌である「新建築」誌において、2000年から2018年に掲載された、運営企画に関する記述が確認できる80事例を選定し、各特性から対象事例の傾向を分析した。竣工年別でみると2011年に事例数が増加しており、2011年に仮設が、その以降は改修が増加している(図3)。建築行為別にみると改修、主構造種別では木造が最も多い。さらに建築主別にみると官公庁や不動産が多く、建築規模

模別では100m²以下が最も多い(図4)。また建物用途別では集合住宅が最も多く文化・集会場が次いだ(図5)。

3. 運営企画の目的と内容 次に運営企画の目的を分析した^{注3)}(図6)。「地域への人の流入・定住促進」などの地域貢献、「既存建築物の再生」などのストックの再生、「自分の建築への愛情の醸成」などの市民の建設参加の促進「作り手と使い手の隔たり解消」などの建築家の役割の再考、「学生の実践の場づくり」などの若手人材の育成の5つに大別したところストックの再生が最も多く、次いで地域貢献が多くみられた。次に運営企画が行われたフェーズを設計・施工・運用の3つに分類し、運営企画について内容を分析した(図7)。「施工ワークショップ」などのイベント・ワークショップ、「建物運営」などの竣工後の運営、「地域団体の設立」などの地域コミュニティの維持管理、「賃貸戦略の計画」などの建物運営の立案、「プロモーション」などの広報の5つに大別したところ、設計においては建物運営の立案が最も多く、施工においてはイベント・ワークショップが運用においては竣工後の運営が最も多いことがわかった。

4. 対象事例の建築表現 次に改修・新築・仮設の建築行為別に建築表現を分析し、平断面計画と材料選定に大別

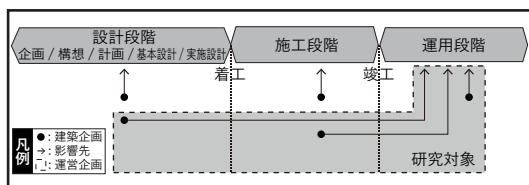


図1 研究対象

表1 対象事例

No	対象事例名称	No	対象事例名称	No	対象事例名称
1	ミナガワビル	28	福島矢吹町みんなの家	55	いわき回廊美術館
2	LIVE+RALLY PARK	29	柳川歴史地区再生計画 旧藤永家住宅	56	北本駅西口駅前広場
3	泊まれる公園 INN THE PARK	30	柳川歴史地区再生計画 旧久喜家住宅	57	水産総合振興センター水産公園プロジェクト
4	宇和米博物館	31	あだももまちプロジェクトわかさや	58	「東北はっけいネットワーク」
5	千鳥文化	32	荻窪家族プロジェクト	59	空知市商店街「みんなの家」かたて
6	左近山みんなのわ	33	川の上 百後館	60	親月橋跡地再生計画 Aエリア
7	JURAKU RO	34	HATO CAFE	61	親月橋跡地再生計画 Bエリア
8	新建築社 北大路ハウス	35	ユウトヴィレッジ南長崎	62	宮古復興支援プロジェクト-ODENSE-
9	ヒルトップマンションバージョン	36	SHARED HOUSE 八十八夜	63	ゆいま〜る 那須
10	コトコトハウスリノベーション	37	地野野地リノベーションプロジェクト	64	りくカフェ
11	出島表門橋	38	りくカフェ本設	65	住居「れい・れい」プロジェクト
12	大学セミナーハウスDining棟やまほり	39	中央線高架下プロジェクト	66	木造賃貸アパート再生あさひバツ
13	日野わかさ幼稚園	40	神明町の戸建て	67	木造賃貸アパート再生R/1M
14	山之内元町長屋	41	食堂付きアパート	68	竹の会所〜復興の方舟〜
15	石の島の石	42	青豆ハウス	69	くまもとアート・プロジェクト東北支援「みんなの家」
16	みやがわベーグル	43	eコラボつるがしま	70	Qube 11 藤川アソシエーツプロジェクト
17	十国市民交流センター「あじろ」	44	HAGISO	71	小さな積み木の家くま集会所
18	十国市民交流センター「しづろ」	45	猪苗代のギャラリー	72	ブルーベアオフィス神山
19	とおり町Street Garden	46	えんがわオフィス	73	黒目のテラスハウス
20	龍宮城アパートメント	47	京都女子大学×UR 洛西NT団地	74	橋本製粉プロジェクト 新プロジェクト
21	APARTMENT	48	かすみプロジェクト 晴海	75	ヨコハマアパートメント
22	CASACO	49	かすみプロジェクト 西郷堂	76	もくもくもく
23	SodaCco	50	かすみプロジェクト 品川八潮	77	月影の郷
24	ユウトヴィレッジ品川	51	岩沼「みんなの家」	78	塩原もの語り館
25	hanare (丸越荘)	52	馬木キャンプ	79	グループホームあそび・はら・のり
26	BOOK AND BED TOKYO	53	伊吹しまつくりラボ	80	IN-City クラブ ウェスト
27	福岡市東区東区 道の駅 藤原小学校	54	さくらアパートメント		

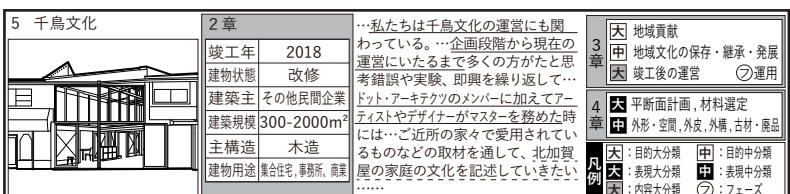


図2 分析方法

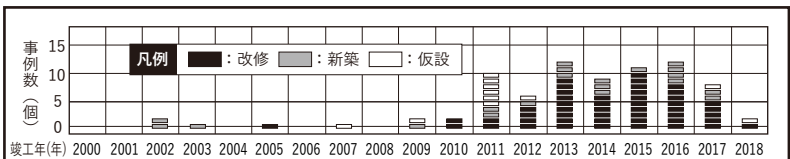


図3 竣工年別の傾向

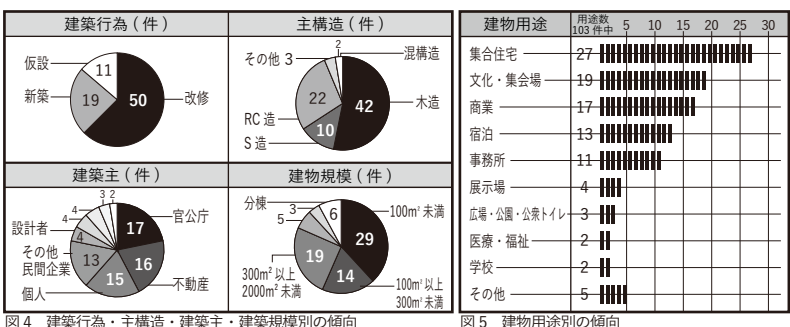


図4 建築行為・主構造・建築主・建築規模別の傾向

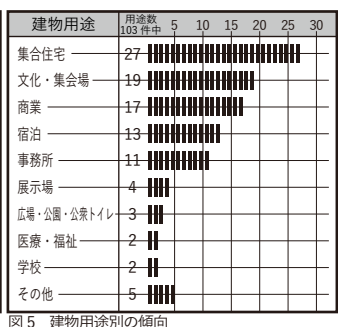


図5 建物用途別の傾向

した(図8)。平断面計画を「吹き抜け等による大空間」をつくるなどの外形・空間計画、「エレメントに色や模様」をつけるなどの外皮計画、「内外の中間領域」を設けるなどの外構計画の3つに大別したところ、外皮計画が最も多くみられた。一方で材料選定を「敷地内の材を使用」するなどの地域産材の使用、「古材・廃品を建物に使用」するなどの古材・廃品の再利用、「入手が容易で安価な材を使用」するなどの施工性向上を見込む材の使用の3つに大別したところ、施工性向上を見込む材の使用と地域産材の使用が最も多く同数みられた。また建築行為別でみると、改修における平断面計画が最も多く、その一方で仮設における平断面計画は最も少なかった。運営企画の内容と建築表現の関係を前章で5つに大別した運営企画の目的別に分析し、代表的な5事例を取り上げた(図9)。「あだち農まちプロジェクト ワカミヤハイツ」では、地域貢献を目的とし、農業を介したイベント・ワークショップや地域コミュニティの維持管理を行っている。平断面計画の外構計画として植栽や菜園を設け、外形・空間計画として腰壁を撤去し内外の中間領域をつくっており、これらは地域コミュニティを維持するための建築表現と考えられる。また「目黒のテラスハウス」では、ストックの再生を目的とし賃貸戦略の計画から建築設計を行った。賃料が相場以上にならないよう、庭や建物を残しつつ壁を新設し、一軒家を分割する外形・空間計画に繋がった。「石の島の石」では、市民の建設参加の促進を目的とし、施工・運用時

イベント・ワークショップを行っている。材料選定として地域産材を用いることで地元の人々にとって親しみやすい公衆トイレを目指した。「みやがわベール」では、建築家の役割の再考を目的とし竣工後の店舗運営を行っている。外壁をポリカーボネート波板に変更し、自らが立つカウンターの外部からの視認性を高めている。「コットンハウスリノベーション」では若手人材の育成を目的に賃貸戦略の計画を行い、賃貸でもカスタマイズ可能な壁を新設し、外皮計画としての建築表現に結びつけた。以上の建築表現は前章で述べた運営企画の目的及び内容と強く関連していることがわかる。

5. 結 以上、本研究では建築雑誌に掲載された事例について竣工年度別や建築行為別、建物用途別などの特性傾向を分析することで、運営企画の実態を定量的に示した。さらに現代建築家が地域貢献やストックの再生などを目的とし、設計時における建物運営の立案や施工時におけるイベント・ワークショップなどの運営企画に関与していることを示した。また、運営企画の目的及び内容と平断面計画や材料選定などの建築表現の関係を明らかにした。

注1) 本論文において、建築プロセスを「設計プロセス」「施工プロセス」「運用プロセス」からなるものとする。建築大辞典902頁(第2版、彰国社)には、「設計プロセス:design process. 設計する際に通過する手順。通常、企画→構想→計画→基本設計→実施設計の順となる」とある。「施工プロセス」を「着工から竣工までの建築家による施工監理及び他活動全般等の手順」、「運用プロセス」は「竣工後に行われる、建築家による建物や地域、店舗等の管理運営等の活動手順」とする。

注2) 建築大辞典492頁(第2版、彰国社)には、「建築企画:planning,programming. 建築主の構想や要求を整理し、その意図する建築物の実現可能性を検討すること(略)検討内容は、立地、敷地条件、市場動向、法規制、および経済的条件などがあり(略)」とある。

注3) 本論文では川喜田二郎「発想法」(中央公論社)の訂法を参照し整理分類している。

参考文献
1) 日本建築学会: まち建築 まちを生かす 36のモノづくりコトづくり, 彰国社, 2014
2) 井上岳, 原里絵香, 櫻井花, アルマザンホールへ: 地域コミュニティのためのコンセンサスにおける設計と運営に関する研究-改修プロジェクト 8事例を対象として-, 日本建築学会計画系論文集, 第83巻, 第754号, pp.2453-2463, 2018.12

大分類	中分類	目的数 102件中	5	10	15
地域貢献 (22)	地域交流の促進	7			
	地域への人の流入・定住促進	6			
	地域文化の保存・継承・発展	5			
	その他	4			
ストック (23)	既存建築物の再生	14			
	不動産価値の向上	3			
	利用者の増加	2			
	その他	4			
市民促進 (18)	自分の建築への愛着の醸成	8			
	建築物や建設行為の保存・継承・発信	5			
	自力修繕・建設の促進	5			
後継者 (16)	作り手と使い手の隔たり解消	9			
	建物運用から建築計画を考える必要性	6			
育成 (5)	学生の実践の場づくり	3			
	若手建築家の育成	2			

図6 運営企画の目的

大分類	企画数 122件中	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50
イベント・ワークショップ	50	9									8
竣工後の運営	29				29						
地域コミュニティの維持管理	21			9							
建物運営の立案	14		12								
広報	8	3	3	2							

図7 運営企画の内容

大分類	中分類	表現数 178件中	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
平断面計画	外皮計画	55					40				13		2
	外形・空間計画	42					41						
	外構計画	40				20				16			4
材料選定	施工性向上が見込む材の使用	15	5		9								
	地域産材の使用	15	5		7	3							
	古材・廃品の再利用	11	7		3								

図8 対象事例の建築表現

目的	地域貢献	ストックの再生	市民の建設参加の促進	建築家の役割の再考	若手人材の育成
事例	31 あだち農まちプロジェクト ワカミヤハイツ	73 目黒のテラスハウス	15 石の島の石	16 みやがわベール	10 コットンハウスリノベーション
事例					
事例	菜園を設け内外をつなぐ	壁を新設し一軒家を分割	外壁に地元産材を用いる	外壁を透明化し視認性を確保	カスタマイズ可能な壁を新設
企画内容	①:運用 因:地域コミュニティの維持管理	①:設計 因:建物運営の立案	①:施工・運用 因:イベント・ワークショップ	①:運用 因:竣工後の運営	①:設計・施工 因:建物運営の立案 因:イベント・ワークショップ
建築表現	大:平断面計画 中:外形,空間,外構計画	大:平断面計画,材料選定 中:外形,空間計画 古材・廃品の再利用	大:平断面計画,材料選定 中:外形,空間計画 地域産材の使用	大:平断面計画 中:外皮計画	大:平断面計画 中:外皮,外構計画

図9 運営企画の目的からみる建築表現の例